



## Financial Data

### 業績の推移 連結

## Contents

### 目次

業績の推移…………… 1

ごあいさつ…………… 2

事業のご報告…………… 3

フォーカス オン シスメックス  
オリンピックで当社製品が活躍  
…………… 6

トピックス  
第38期上半期事業活動の動向  
…………… 7

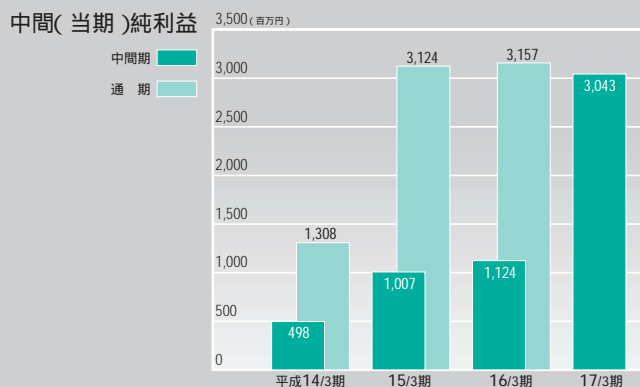
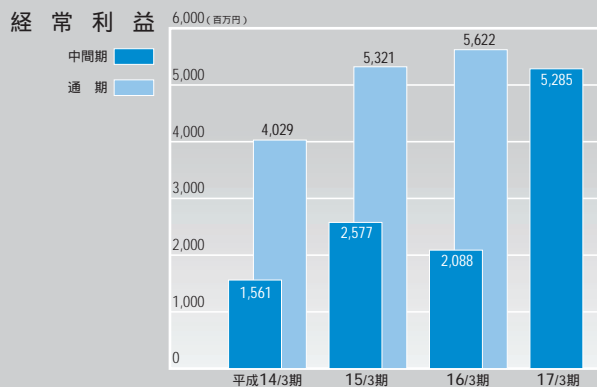
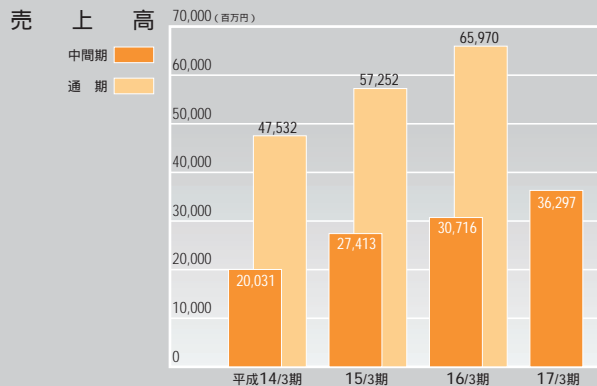
フォーカス オン シスメックス  
さらに加速する中国ビジネス  
…………… 9

財務諸表の概要…………… 11

株式の状況…………… 13

株主メモ / 会社概要…………… 14

米国最前線レポート



# Message

## ごあいさつ

### 第38期上半期の業績をご報告いたします。

株主の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、先進国の医療機関を取り巻く環境は、急速に進展する高齢化に対応するため、医療費抑制に向けた取り組みが進められています。日本においては、本年4月から実施された診療報酬・薬価の引き下げ、国立病院の独立行政法人化など、抜本的な医療制度改革が進められており、引き続き厳しい状況が続いています。一方、中国・アジア諸国においては経済成長に伴い、医療インフラの整備が推進され、市場は拡大傾向にあります。

このような状況の下、当社グループは医療情報システムの専門企業である株式会社シーエヌエーを子会社化し、IT商品の品揃えの充実と事業体制の強化を図りました。米国市場では、昨年同期から直接販売・サービス体制に移行し、IHN(統合型ヘルスケア・ネットワーク)への販売活動を強化しました。また、サービス&サポート体制の再構築により積極的な活動を行い、市場でのプレゼンスやユーザー評価が向上しています。欧州市場では引き続きITを含めた総合提案型販売に注力しました。

この結果、連結売上高は36,297百万円(前年同期比18.2%増)を達成し、利益面では、営業利益は4,312百万円(前年同期比64.4%増)、経常利益は5,285百万円(前年同期比153.0%増)、中間純利益は3,043百万円(前年同期比170.6%増)と順調に推移しました。なお、当中間期末の配当金につきましては、

予定どおり1株当たり15円といたします。

「A Unique & Global Niche Company」を長期ビジョンに掲げ、特長のあるグローバル企業を目指し、先進のテクノロジーと独自の強みを活かしたソリューションをお客様に提供することで、検体検査分野におけるリーディングカンパニーの確固たる地位を確立し、皆様のご期待にお応えできるよう、さらなる業績の向上に努める所存です。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置付けており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

そのため、業績の一層の向上と経営基盤の強化を図り、株主の皆様のご期待に添うべく努力してまいります。

今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



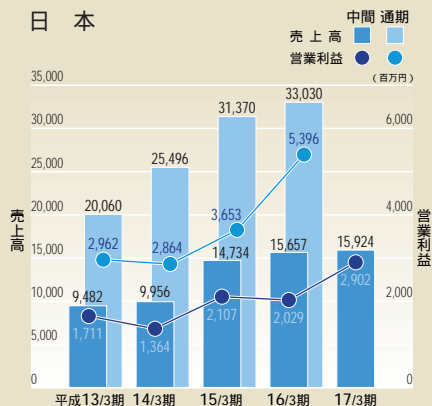
代表取締役社長

家次 恒

# Operation Review

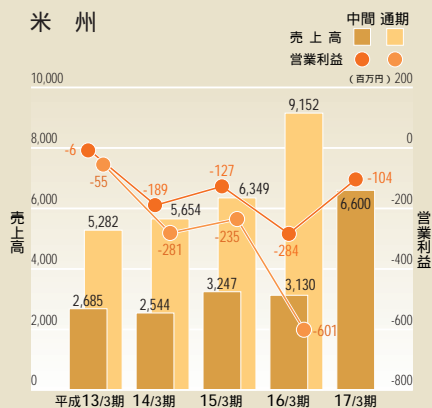
## 事業のご報告 — 所在地別セグメントの業績 —

### 日本



韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

### 米州



## 日本

### 大幅な増益を達成

日本市場では、医療制度改革に伴い市場環境が大きく変化しており、お客様のニーズは多様化・複雑化しております。また、強力なコスト削減要求を受けて、業界全体が厳しい環境にあります。

このような状況の下、当社は、医療情報システムの専門企業である株式会社シーエヌエーの子会社化によるIT事業の体制強化など、トータルソリューションビジネスの充実を図りました。

当中間期は、血液分析装置用試薬および血液凝固検査試薬の売上が順調に増加しました。その結果、売上高は15,924百万円(前年同期比1.7%増)となりました。一方、利益面においては、好調な欧州関係会社向けの売上に伴う増収効果や増産効果が好影響を及ぼし、営業利益は2,902百万円(前年同期比43.0%増)と大幅な増益を達成することができました。

## 米州 (北米・中南米)

### 大幅な増収を実現

米国市場は、全世界の検体検査市場の約40%を占める世界最大の市場であります。他の先進諸国同様、医療費抑制政策が継続される中、米国では、医療費総額は増加の傾向にあります。

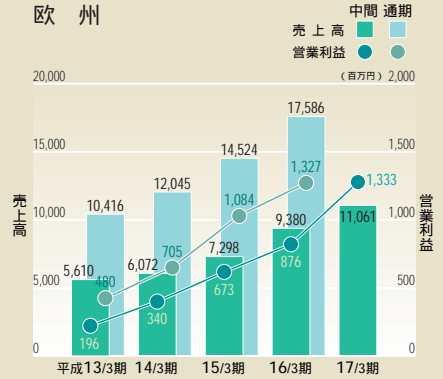
当社は、昨年9月に直接販売・サービス体制へ移行しました。お客様とのダイレクトコミュニケーションにより、お客様から高い評価を得ることに成功し、当中間期は、血液分析装置および試薬とサービス&サポートの売上が大幅に増加しました。また、尿検査装置、血液凝固測定装置および試薬の売上も順調に伸ばしました。以前は代理店がカバーしていなかった検査センターに対する販売実績も出てきており、米国における事業体制の再構築の効果が顕在化してきています。

その結果、円高の影響を補い、売上高は倍増の6,600百万円(前年同期比110.8%増)と大幅な増収となりました。一方、利益面においては、販売サービス費の増加とIT事業のコスト負担などにより、営業損失は前年同期に比べ改善したものの、104百万円(前年同期の営業損失は284百万円)となりました。

## 欧州

### 売上・利益ともに順調に推移

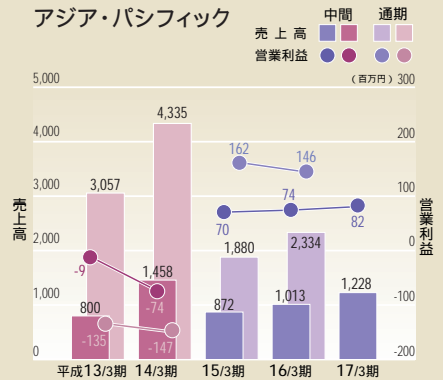
欧州市場では、検査情報システムを活用した総合提案型販売の継続により、血液分析装置、血液凝固測定装置、尿検査装置および試薬の売上が順調に推移しました。その結果、売上高は、11,061百万円(前年同期比17.9%増)となりました。一方、利益面においては、大幅な増収効果が販売費および一般管理費の増加を補い、営業利益は1,333百万円(前年同期比52.1%増)となりました。



## アジア・パシフィック

### 試薬の売上が拡大

アジア・パシフィック市場では、血液分析装置用試薬の売上が好調に推移しました。その結果、円高の影響を補い、売上高は1,228百万円(前年同期比21.2%増)と順調に伸長しました。利益面においては、増収効果が販売費および一般管理費の増加を補い、営業利益は82百万円(前年同期比11.5%増)となりました。



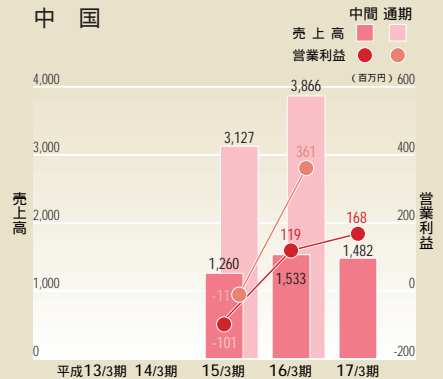
## 中国

### 利益の拡大を確保

中国市場では、沿海の都市部における検査装置の高機能化の動きと内陸の農村部における医療体制整備による検査装置の普及という2つの流れがあります。このような状況の下、当社は、都市部の高機能化へのニーズに応えるため、中国向けの臨床検査情報システム「Laboman.net」を発売し、ソリューションビジネスを強化しました。また、農村部における普及型検査装置の販売強化を行いました。

当中間期は、血液凝固測定装置および血液分析装置用試薬、尿検査装置用試薬の売上が好調に推移しました。しかし、前中間期はSARS感染対策による血液分析装置の需要急増があったため、当中間期は血液分析分野の売上が減少しました。

その結果、円高の影響もあり、売上高は1,482万円(前年同期比3.3%減)となりました。利益面においては、試薬売上比率の増加による売上原価率の改善と販売費および一般管理費の抑制により、営業利益は168百万円(前年同期比41.3%増)を確保することができました。



平成13/3期と14/3期の売上はアジア・パシフィックに含まれます。

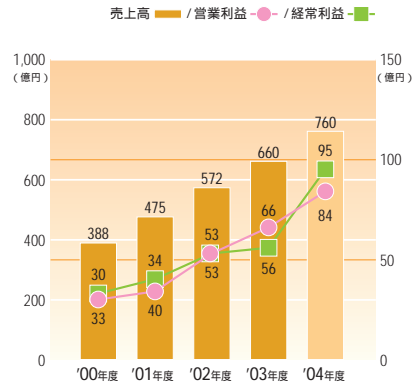
## 通期の見通し

グローバルビジネスを積極的に  
推進し、ソリューションの提供で  
さらなる業績の拡大、利益の  
向上に努めます。

### 2004年度見通し (連結)

売上高 760億円  
営業利益 84億円  
経常利益 95億円  
(為替レート:1ドル=110円  
1ユーロ=135円)

億円未満を四捨五入して  
表示しています。



今後、わが国の医療を取り巻く環境は、DPC( 疾病毎の包括払い ) の拡大や医療機関の機能別分担など、医療制度改革はさらに進展し、より一層厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況の下、当社グループは、国内試薬工場の機能強化と中国における試薬第二工場の操業開始などにより、試薬生産のコスト低減と品質の向上を図り、グローバルに商品供給体制の改革を行います。また、中国において富士写真フイルム株式会社の小型生化学検査装置の販売を開始するとともに、株式会社シーエヌエーの子会社化などにより、さらなる品揃えの強化に取り組みます。検体検査機器・検体検査試薬・IT・サービス&サポートをあわせた

ソリューションによる提案活動を積極的に推進します。

第38期通期の業績見通しについては、国内では抜本的な医療改革の進展に伴う厳しい環境が続くものの、海外では米国における直接販売・サービス体制の構築による増収などが見込まれ、売上高は76,000百万円(前年同期比15.2%増)を予想しています。一方、利益面においては、増収効果と販売費および一般管理費の抑制並びに営業外損益の改善を見込んで、経常利益9,500百万円(前年同期比69.0%増)、当期純利益5,100百万円(前年同期比61.5%増)を予想しています。なお、配当金は、1株につき年間30円(中間15円、期末15円)を予定しています。



# アテネオリンピック、 日本選手メダルラッシュの舞台裏で シスメックス製品も大活躍!!



メダル獲得総数37個と、日本選手が大活躍したアテネオリンピック。女子マラソン金メダリストの野口みずき選手が所属するグローバル女子陸上競技部では、2002年から血液を採取することなくヘモグロビン量を測定する末梢血管モニタリング装置アストリムを導入し、独自の管理手法で栄養管理とスポーツ性貧血の予防に活用されてきました。当社の無侵襲(採血不要)によるヘモグロビン測定技術が、アスリートたちのデータに基づくきめ細かな体調管理や効率的なトレーニングに役立っています。

また、ハンマー投げの室伏選手が繰り上げで金メダルを獲得するなど、ドーピング問題が話題になりました。今回、大会期間中、ドーピングコントロールセンターで実施される血液検査に、当社の多項目自動血球分析装置XE-2100が採用されました。持久力を競う種目のアスリートたちは、より多くの酸素を全身の筋肉に供給する必要があり、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンは、体内の細胞に酸素を送る重要な役割を担っています。薬物などの不正な手段により赤血球を増やすドーピングを、信頼度が高くかつ簡便に検査できる方法として当社製品が採用されました。

日本選手が活躍したアテネオリンピックの舞台裏で、  
 当社製品も選手の体調管理や公正な競技の実施に貢献しました。



末梢血管モニタリング装置  
 アストリムSU



多項目自動血球分析装置XE-2100

## 「アストリムSU」を グローバリー女子陸上競技部に寄贈

アテネオリンピック女子マラソンで優勝した野口みずき選手の所属するグローバル女子陸上競技部に、末梢血管モニタリング装置「アストリムSU」を寄贈しました。11月1日、野口みずき選手出席のもと寄贈式が行われました。



### 神戸バイオメディカル創造センターに 研究拠点を開設

新たな癌診断技術の創出を目指す

神戸ポートアイランド2期の神戸バイオメディカル創造センター（BMA）に、「シスメックス・BMAラボラトリー」を開設しました。

BMAは神戸市が中心となって推進する神戸医療産業都市構想の中核的な施設で、移転が予定されている神戸市立中央市民病院や理化学研究所に隣接しています。健康や福祉医療関連産業の振興を図るため、大学や研究機関、民間企業などが連携して高度医療技術の研究開発に取り組んでいます。

当社はこの研究拠点で、先端医療分野における探索的な研究を実施し、事業化に向けた研究開発をさらに加速します。特に抗癌剤の効果予測に用いるタンパクチップに関する研究に取り組み、産官学の連携により新たな癌診断技術の創出を目指します。



抗癌剤の効果予測に用いる  
タンパクチップ

神戸バイオメディカル創造センター



神戸ハイテクパークに取得した新事務所

### 「神戸ハイテクパーク」に事業用不動産を取得

神戸市西区の「神戸ハイテクパーク」内に、土地面積65,031m<sup>2</sup>鉄骨・鉄筋コンクリート造6階建て、地下1階の建物2棟を事業用不動産として取得しました。同区内のテクノセンターから研究開発以外の機能を集約すると共に、新たに研修センターの開設も予定しています。テクノセンターについては、全社の研究開発部門を集中させ、総合力のさらなる強化を目指します。なお、建物の約半分にあたる部分については、前所有者と今後7年間の賃貸借契約を締結しています。



2004.4. >>> 2004.9.

## 世界初、Webカメラ搭載の塗抹標本作製装置 SP-1000*i*を発売

世界で初めてWebカメラを搭載し、ネットワーク対応機能を備えた塗抹標本作製装置「SP-1000*i*」を発売しました。初代の塗抹標本作製装置「SP-1」は世界で最初に血液細胞観察用の標本作製を自動化し、1995年に発売した「SP-100」は染色までの自動化を可能にしました。今回の「SP-1000*i*」は基本機能の向上に加え、ネットワーク対応機能も備えています。これにより、Webカメラの映像とお客様の装置情報を活用し、当社のサポートセンターからネットワークを通じたメンテナンスを行い、血液検査業務の効率をさらに高めます。

また、「SP-1000*i*」は総合血液検査システム「HSTシリーズ」「Alphaシリーズ」に組み入れられ、多目的自動血球分析装置や搬送部と連動し、ユーザーニーズへのよきめ細かい対応とダウンタイムの短縮を実現します。



塗抹標本作製装置SP-1000i

## 神戸大学大学院医学系研究科が 「立証検査医学講座(シスメックス)」を開設

「立証検査医学講座(シスメックス)」が当社の協力により神戸大学大学院医学系研究科に開設されました。

先端医療分野において多くの検査技術が開発される中で、当講座は新しい検査技術の有用性を評価する方法を確立し、臨床現場での適切な利用を提案します。

また、産官学の連携による新たな臨床検査技術の開発も進め、診断や治療のレベル向上と医療の経済性への貢献を目指します。

寄付総額 1億5千万円(5年間)

## 震災復興を願って、10回目を迎える 「神戸ルミナリエ」に今年も協賛

阪神・淡路大震災による犠牲者への追悼と被災地の復興を祈念して開催されている「神戸ルミナリエ」は、今年で10回目を迎えます。

私たちに明日へと向かう感動と希望を与えてくれる、きらびやかな光の芸術。神戸に本拠を置く当社は、地元の復興と発展を願い、1996年より毎年協賛しています。

開催期間  
12月13日(月)～12月26日(日)

作品テーマ  
神戸、光の都

会場  
神戸市中央区旧外国人居留地  
界隈および東遊園地



## さらに加速するシスメックスの 中国ビジネス

6つの営業拠点と  
中国全土を



中国の検体検査市場は、年率約15%の成長が続き、医療インフラが急速に発展しています。

当社では中国を重点戦略市場と位置づけ、積極的なビジネスを展開しています。今回、富士写真フイルム(株)と中国における小型生化学検査装置「富士ドライケムシステム」の販売に関する業務提携契約を締結しました。これにより、生化学分野における品揃えが一層充実し、総合サプライヤーとしての競争力がさらに強化されました。

### 中国市場における総合サプライヤーとして、 ビジネスを展開

当社は現在、北京、瀋陽、西安、成都、広州そして上海に6つの営業拠点を設けています。これらの営業拠点は63の代理店と連携し、広大な中国全土をカバーする販売・サービスネットワークを形成しています。中国全土のお客様からのお問い合わせ受付窓口としてコールセンターを設け、問い合わせへの回答やサービスの提供を行っています。また、生化学・免疫分野への事業拡大のため、無錫市に中国での試薬第2工場を設立し、稼働に向けて準備を進めています。

現在中国では、発展が著しい沿海都市部と内陸農村部では医療インフラの整備状況に大きな格差があります。検査の質の向上が求められる沿海都市部に向けては、現地のIT開発子会社で開発した臨床検査情報システム「Laboman.net」を今春から販売開始し、ソリューションビジネスを積極的に展開しています。一方、国家主導で医療環境の整備が進められる内陸農村部に向けて、多項目自動血球計数装置「pocH-100i」などの普及型検査装置の販売を推進しています。

63の代理店で  
カバーしています。



- 現地法人
- 地方事務所  
(営業拠点)
- 主要代理店
- 代理店

当社は、中国市場において血球計数・凝固・尿・生化学分野に関する機器と試薬、ITを活用した臨床検査情報システムおよびサービス&サポートを複合的に提供する総合サプライヤーとしての地位を確立しています。今、シスメックスの中国ビジネスは、市場成長率をはるかに上回る伸びで成長を続けています。

**充実した販売・サービス網と品揃えで、  
中国での総合サプライヤーNO.1を目指します。**

### 富士写真フイルム(株)との提携で 小型生化学検査装置の品揃えを強化

富士写真フイルム株式会社と中国でのドライケムストーリー方式による小型生化学検査装置「富士ドライケムシステム」の販売に関する業務提携契約を締結しました。

生化学検査装置は、液状試薬を使用するタイプと乾燥試薬を用いるドライケムストーリー方式タイプに分類されます。中国では農村部を中心に輸送インフラの整備されていない地域が多く、乾燥試薬を用いるドライケムストーリー方式の生化学検査装置は、低温での保管・流通が必要な液状試薬と比較して、簡便性が高く、今後一層の需要拡大が予測されています。当社が販売している液状試薬を用いた生化学検査装置に、日本において高いシェアを持つ富士写真フイルムのドライケムストーリー方式による小型生化学検査装置「富士ドライケムシステム」を加え、生化学分野の品揃えを拡充し、中国市場での総合サプライヤーとしての競争力を強化しました。



富士ドライケムシステム FDC 7000

## 貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間期 平成16年9月30日現在		前期末 平成16年3月31日現在	
	連結	単独	連結	単独
<b>資産の部</b>				
流動資産	50,921	40,177	48,239	42,033
固定資産	26,743	34,269	23,742	30,516
●資産合計	77,665	74,447	71,982	72,549
<b>負債の部</b>				
流動負債	20,881	17,361	18,907	18,293
固定負債	2,564	1,768	1,965	1,050
●負債合計	23,446	19,129	20,873	19,344
<b>少数株主持分</b>				
少数株主持分	814	—	13	—
<b>資本の部</b>				
資本金	7,954	7,954	7,943	7,943
資本剰余金	11,181	12,113	11,170	12,101
利益剰余金	33,737	34,909	31,243	32,822
その他有価証券評価差額金	460	430	456	413
為替換算調整勘定	161	—	357	—
自己株式	90	90	75	75
●資本合計	53,405	55,317	51,095	53,205
負債・少数株主持分・資本合計	77,665	74,447	71,982	72,549

## 資産及び負債・資本(連結)

総資産は前期末と比べて56億83百万円増の776億65百万円となりました。主な要因は、売上高の増加に伴い売上債権や棚卸資産が増加したこと、西神南事業所取得に伴う投資不動産の増加等によるものです。

一方、株主資本は利益剰余金の増加等により23億9百万円増の534億5百万円となりましたが、株主資本比率は68.8%(前期末は71.0%)に低下しました。

## キャッシュ・フロー(連結)

税金等調整前中間純利益は50億47百万円(前年同期比30億26百万円増)と大幅に増加しましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べて22億84百万円減少の43億59百万円となりました。これは主に、前中間期は法人税等の還付に加え法人税等の支払額が少なかったことに対して、当中間期は法人税等の支払額が22億96百万円(前年同期比21億75百万円増)と大幅に増加したこと等によるものです。

## 売上高(連結)

売上高は前年同期に比べて55億80百万円(18.2%)増の362億97百万円となりました。国内は153億89百万円と4億73百万円(3.2%)増加し、海外は昨年から直接販売・サービス体制に移行した米国および欧州を中心に売上高が増加し209億7百万円と51億7百万円(32.3%)の大幅増収となりました。なお、海外売上高比率は57.6%(前年同期は51.4%)となりました。

## 経常利益・中間純利益(連結)

中間期末の円安の影響もあり営業外損益が改善し、経常利益は約2.5倍の52億85百万円(前年同期比31億96百万円増)、中間純利益は約2.7倍の30億43百万円(前年同期比19億18百万円増)となりました。

## 損益計算書

(単位:百万円)

	当中間期 平成16年4月1日から平成16年9月30日まで		前中間期 平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	
	連結	単独	連結	単独
●売上高	36,297	25,001	30,716	22,737
売上原価	15,210	11,188	12,958	10,666
売上総利益	21,086	13,812	17,757	12,071
販売費及び一般管理費	16,773	11,395	15,134	10,654
●営業利益	4,312	2,417	2,623	1,416
営業外収益	1,127	1,900	193	704
営業外費用	154	170	728	698
●経常利益	5,285	4,147	2,088	1,421
特別利益	4	1	21	4
特別損失	242	230	88	75
税金等調整前中間純利益	5,047	3,918	2,021	1,350
法人税・住民税及び事業税	2,261	1,459	1,108	454
法人税等調整額	270	167	198	59
少数株主損益	12	—	14	—
●中間純利益	3,043	2,625	1,124	956
前期繰越利益	—	1,378	—	957
中間未処分利益	—	4,004	—	1,913

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	4,359	6,644
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,682	1,333
財務活動によるキャッシュ・フロー	572	1,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	28
現金及び現金同等物の増減額	95	4,034
現金及び現金同等物の期首残高	13,718	10,253
現金及び現金同等物の中間期末残高	13,813	14,287

## 営業利益(連結)

増収効果や増産効果の寄与により販売費及び一般管理費の増加を補い、営業利益は16億88百万円(64.4%)増の43億12百万円となりました。

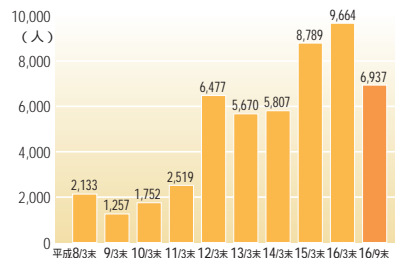


# 株式の状況

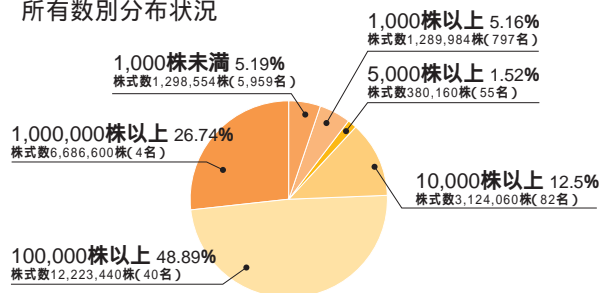
会社が発行する株式の総数 74,836,000株

発行済株式総数 25,002,798株

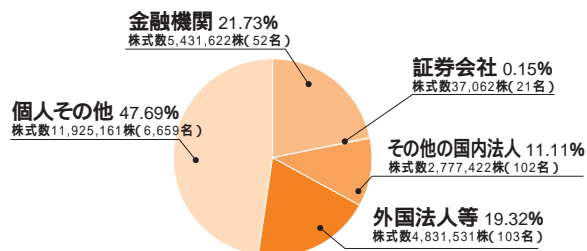
株主数の推移



所有数別分布状況



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用。

## 株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会 基準日	6月
定時株主総会	3月31日
利益配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。	
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
証券コード	6869
1単元の株式の数	100株

株式事務 名義書換代理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先・ 電話照会先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店

- お知らせ**
- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
  - 配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
  - 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。

## 会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (平成10年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)
設立年月日	昭和43年2月20日
資本金	79億5459万円
従業員数	1,135名 左記の従業員数には関係会社への出向者209名および嘱託、パートタイマー257名は含んでおりません。
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
主な事業所	
本社	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524
テクノセンター	加古川工場 小野工場
仙台支店	北関東支店 東京支店 名古屋支店
大阪支店	広島支店 福岡支店
営業所	札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、 京都、神戸、高松、岡山、鹿児島

### 主な関係会社

国際試薬株式会社  
メデイカ株式会社  
トーマメディカル株式会社  
シスメックス物流株式会社  
株式会社アール・エー・システムズ  
株式会社シーエヌエー  
SYSMEX AMERICA, INC.(アメリカ)  
SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ)  
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル)  
SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)  
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)  
WELLTEC GMBH(ドイツ)  
SYSMEX UK LIMITED(イギリス)  
SYSMEX LOGISTICS UK LTD.(イギリス)  
SYSMEX HOLDING BELGIUM S.A.(ベルギー)  
SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)  
SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)  
SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA,S.R.O.(スロバキア)  
済南希森美康医用電子有限公司(中国)  
希森美康香港有限公司(中国)  
希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)  
希森美康電腦技術(上海)有限公司(中国)  
希森美康生物科技(無錫)有限公司(中国)  
SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール)  
SYSMEX (MALAYSIA)SDN BHD(マレーシア)  
SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド)  
SYSMEX (THAILAND)CO.,LTD.(タイ)  
MED-ONE CO.,LTD.(タイ)  
SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)  
SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド)  
PT. SYSMEX INDONESIA(インドネシア)

## 役員のご紹介

取締役社長  
(代表取締役) 家次 恒  
専務取締役 雪本 賢一  
常務取締役 和歌 光雄  
常務取締役 岩崎 為雄

取締役 日置 栄一  
取締役 中谷 正  
取締役 林 正好  
取締役 大東 重則

取締役 山本 博  
取締役 中島 幸男  
取締役 田村 幸嗣

常勤監査役 明田 光弘  
常勤監査役 岩田 豊太郎  
監査役 石田 義晴

データは全て平成16年9月30日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成16年10月31日現在のデータです。



米国最前線レポート

# シスメックス グローバル戦略

## 学術活動を強化し、 お客様との コミュニケーションを充実



米国では、直接販売・サービス体制への移行とあわせて、学術面から医療分野への貢献を図るためにシンポジウムを開催しています。

シンポジウムでは、全米から多くのお客様をご招待し、著名な先生による当社製品を使用した研究成果の発表・講演に加えて、活発なディスカッションが行われています。



2004年度 第1回  
シスメックスシンポジウム  
in ダラス



2004年度 第2回  
シスメックスシンポジウム in シカゴ



今年も、5月にダラス、10月にシカゴにて開催されました。シンポジウム開催期間中は、当社製品のデモンストレーションも行われ、多くのお客様に当社の高い技術力を感じていただくと共に、シスメックスブランドを認識していただく機会を提供しています。

米国における事業体制の再構築により、機器・試薬の製造元である当社が直接サービスおよび学術活動を実施することで、お客様の安心・満足度が向上し、高い評価をいただいております。

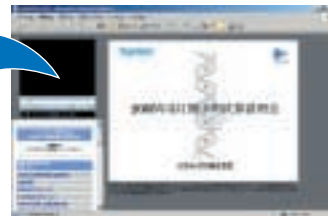
シスメックス株式会社

URL=<http://www.sysmex.co.jp>

再生紙、大豆油インキを使用しています。

## お知らせ

中間決算説明会の模様を  
当社ホームページにて、  
動画でご覧いただけます。



URL=<http://www.sysmex.co.jp/ir/>